

【テーマ 主体的でいきいきした生活の維持を目指して

～特別養護老人ホームだからできる経管栄養利用者のケア～

【発表者：世田谷区立特別養護老人ホーム上北沢ホーム 磯野かおり、藤原ふさ子】

1 はじめに 私たちの課題意識

口から必要な栄養を摂れなくなったときの方法の一つに、胃ろう等の経管栄養法がある。経管栄養になったら、ベッドから離れられないのではないか、大好物はもう食べられないのか等、今まで普通に生活していたことを諦めなくてはと思われがちである。

諦める生活ではなく、いかに主体的にいきいきと暮らしていただくことができるか、上北沢ホームで取り組んでいる個別ケアについて、事例を交えて実践報告をする。

2 ご利用者のニーズを通してみえた支援の3本柱

- (1) 起きて過ごす ～ (例) 外出やレクリエーションへの参加
- (2) 味覚を楽しんでいただく ～ (例) 好きな味を見つける
- (3) 馴染みの生活スタイルの継続 ～ トイレでの排泄、食堂でのおしゃべり

3 支援のプロセス

アセスメント (多職種による情報集約・分析)

⇒ 医師の判断 家族への説明・同意

⇒ 多職種合議によりケアプラン案作成

⇒ 本人、家族の同意

⇒ サービス実施

⇒ モニタリング (評価)

4 事例から

- (1) 外出、レクリエーションへの参加
- (2) 好きな味を楽しむ
- (3) トイレの使用

5 おわりに 今後の取組みと展望について